

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：福岡県青少年科学館
- 2 指定管理者名：福岡県青少年科学館運営グループ
- 3 指定期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日
- 4 施設設置目的：青少年の科学に関する知識の普及啓発を図り、もって創造性豊かな青少年の育成に寄与する。
- 5 管理運営についての点検結果（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
 - (1)点検方法：事業報告書、現地確認・ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果：別添のとおり

1 管理運営状況総括表

大項目	事業計画(取り組みや改善の内容等)	管理運営の概要
① 公共性(公益性)の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・国や福岡県の方針を踏まえた事業展開を行う。 ・利用案内の配布による学校利用の促進や、科学体験による効用の周知を行い、学校教育との連携を図る。 ・県民の学習ニーズに応じた学習機会の提供に努め、地域との連携を図る。 ・高齢者・障がいのある人に対する配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に準拠した展示やプラネタリウム学習番組の投映を行った。 ・国の科学技術基本計画及び福岡県の教育施策を踏まえたプログラム構築を行い、小中学校を中心に団体の受入れを積極的に行った。また、天文現象についての科学講演会やサイエンスショー、科学を身近に感じることのできる「おもしろサイエンスフェア」等を実施した。 ・「科学館ニュース」31万部を年4回、特別展・企画展のポスター・チラシを各1回、配付エリアを拡充して学校に配付し、積極的に利用促進を図った。 ・「市民天体観望会」(2回)、「星空教室」(5回)、「ファミリープラネタリウム」(2回)等、子どもから大人まで参加できる各種教室を実施した。また、「サイエンス教室」(7回)、「ものづくり工房」(4回)など、内容を充実させ、計画的に行った。 ・県立社会教育施設や地元久留米市等と連携を図り、イベントや科学・天文事業への講師派遣等(ネットワーク推進事業)(9回)を行った。 ・必要に応じ、身体障がい者専用とされていない駐車区画を身体障がい者用の区画に変更した。
② 施設利用及びサービス向上	<p>ア 利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年に科学に対する興味・関心を抱かせるため、楽しみながら科学を体験できる事業展開を行う。 ・積極的な情報の発信に努め、行事や科学情報を地域に発信する。 ・ポスター、チラシなどさまざまな手段により、広報・PR活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「サイエンス教室」(7回)、「ものづくり工房」(4回)、「科学工作教室」(38回)、「おもしろサイエンスフェア」(3日間)等を実施した。 ・特別展(1回)、作品展(1回)、巡回展(2回)、企画展(1回)、プラネタリウム学習番組(11本)、「市民天体観望会」(2回)、「星空教室」(5回)、「星と音楽のタベ」(1回)、「ファミリープラネタリウム」(2回)を実施した。作品展は、「小・中学生理科研究コンクール」として実施し、興味・関心を高め、出展作品の質の向上に努めた。 ・近隣施設間で互いの取組に関する情報交換を細かに行い、共同で広報リーフレットを配付した。 ・開館30周年企画展の他、全国科学館連携協議会等と連携して巡回展を開催した。また、RKB毎日放送のアナウンサー・気象予報士である龍山康朗氏を講師に招き、リモートで天文現象についての科学講演会を開催した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館を機に、自宅で行える科学実験や天体観測の方法をホームページで情報発信するとともに、解説付きの動画を制作し、公開した。 ・県内及び近隣県の小中学校、マスコミ、旅行会社、公共交通機関等に対しても積極的な広報活動を行った。

大項目	事業計画(取り組みや改善の内容等)	管理運営の概要
	<p>イ サービス・利便性の維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間など繁忙期における常時開館を行い、サービス向上に努める。 ・プラネタリウムの投映番組を多様化し、投映回数を増やすことにより、より利用者ニーズに対応できるようにする。 ・積極的にボランティアを活用し、利用者サービスに努める。 ・海外からの旅行者など外国人来館者への対応に努める。 ・事業効果の検証を行い、サービス向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間は休まず毎日開館し、サービス向上に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学習番組については、予め設定した投映時間に合わせて利用いただき、一般番組については、前年度より投映回数を減らし、平日は1回、土曜・日曜・祝日は3回、夏季休業期間は3回投映を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施回数は減ったものの、「おもしろサイエンスフェア」、「市民天体観望会」でボランティアを活用した。令和2年度のボランティア登録者数は科学ボランティア21名、天文ボランティア40名であった。 ・翻訳機を総合案内に設置し、案内がスムーズに行えるよう環境を整えている。 ・入館者アンケートを常置するとともに、各事業毎のアンケート調査を実施し、結果の分析・検討を踏まえた改善策が事業運営に反映されるよう努力した。また、車椅子の貸し出し等、障がいのある方、高齢者及び幼児連れの家族等に配慮した接客に努めた。
③ 経営(収支)改善	<p>利用者により身近に親しんでもらえるよう、利用料金の適正化を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料:270,095千円(対前年度比100.2%) ・割安なセット券料金を引き続き販売し、利用者へのサービスの維持向上に努めた。 ・利用料金収入:目標額51,000,000円、実績額16,753,640円(対前年度比38.1%) ・利用者数:目標数318,700人、実績数91,842人(対前年度比29.5%) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4/1から5/26まで臨時休館
④ 職員確保方策及び健全な財政基盤	<p>科学館は学校教育との関わりが密接であることから教育職員を配置する。また、展示事業においては学芸員資格を有する人材を配置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクター17名中、教員免許取得者5名、学芸員資格取得者2名
⑤ 施設管理上の個別事項		<ul style="list-style-type: none"> ・開示請求については、財団情報公開規程(県条例に準拠)に基づき、適切に情報公開を行っている。 ・企画運営会議を定期的実施し、安全管理、展示内容及び事業の分析、検証を行い、改善を図った。 ・普通救命講習を実施した。 ・始業時、終業時点検を実施し、事故回避に努めた。 建物、展示物に対する火災保険、施設賠償責任保険、エレベーター保険、各種教室参加者に対する傷害保険、自動車保険に加入した。 ・安全対策・危機管理に関する取組については、消火・避難誘導の手順を再確認する研修を行った。

2 点検結果

<input type="checkbox"/> A+ (提案内容を上回った) <input type="checkbox"/> A (提案内容をやや上回った) <input checked="" type="checkbox"/> B (概ね提案内容どおり) <input type="checkbox"/> C (提案内容をやや下回った) <input type="checkbox"/> D (提案内容を下回った)	<p>【総合コメント】</p> <p>事業計画に示された方針に即して適切に運営されており、利用の促進、サービス・利便性の維持向上が図られている。</p> <p>利用者の興味関心を高める魅力的な特別展の実施や、小・中学生を対象に、新しい学習指導要領で必修化されたプログラミングの教室を実施したほか、メディアを通して馴染みのある気象予報士を講師として招聘し、科学講演会を行うなど、更なる内容の充実を図っている。また、ボランティアの育成や積極的な広報活動、近隣施設と連携した取組を行う等、利用促進・科学教育の普及に努めている。</p> <p>さらに、夏季休業中の全期間開館や通年でセット券販売を引き続き行い、サービス・利便性の維持向上を図っている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から5月26日までの臨時休館をはじめとして、開館後も消毒作業の実施に伴う開館時間の短縮やイベントの中止などの影響を受けた。この結果、入館者数、利用料金収入は共に目標値には届かなかった。一方で、自宅でできる科学実験や天体観測の方法等について動画を制作し、ホームページ上で公開するなど、子どもの科学に対する興味・関心を抱かせる情報発信に努めている。</p> <p>今後も、入館者の安全に配慮しながら事業を実施するとともに、入館者数増と利用料金収入の確保に向けた取組を期待したい。</p>
--	--